

〔曲名〕 Sposi Novelli Duetto di Concerto

成婚二重奏曲

〔曲種〕 Concerto

〔作曲者〕 Giuseppe Filippa

ジュゼッペ・フィリッパ

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

作者ジュゼッペ・フィリッパはイタリア中東部のアドリア海に面した港町、ペサロの国立吹奏楽団長で、残念乍ら未だにその生死年を詳かにしない。

然しその作品は19世紀末までに多量に出版されており、大半吹奏楽曲であるが、

時恰（あたか）もイタリアでマンドリン音楽が開花した時期でロマンの薫り豊かでマンドリン合奏曲に移したものが数ある。

田舎の祭り、四旬節の謝肉祭、マリナレスカ、還俗修道士、婚約者、滅びし国、ペザレーゼ、怯える小鳥、懐かしき追憶、二人の友、などで、

既に相当馴染まれたものがあるようである。

ペサロはイタリアロマン派の歌劇最大の作曲家ロッシーニの出身地で、この町の誇りとしているが、ペサロ気質と云うべき”ペザレーゼ”はかの著名なロッシーニの”セミラミデ”の一節を敷衍した作品で、原作者への敬意を表したもののようであり、

”二人の友”は比留間賢八生誕120年記念の東京公演で今は亡き飯島国男氏の指揮で、比留間きぬ子、杉原里子両女史によって演奏されたのが記憶に新しい。

又毎年夏、大阪で開かれる全高校マンドリン・ギターフェスティバルではフィリッパの作品は度々登場して馴染まれている。

永年イタリアで学んだ同志社大学のOB指揮者石村隆行君が帰国に当たって未知の沢山の作品を贈ってくれた中にフィリッパの3曲があり、

本曲Sposi Novelliはその一つで、原曲は管楽器の様々な組み合わせによる二重奏曲である。

原曲を見ると必ずしも特定の楽器による二重奏とは見られないのでマンドリンに移して見た。

内容を見ると結婚に至るまでの様々な楽しい思い出を綴った作品のようで愛の二重奏曲であるが、“成婚二重奏曲”が一番近いのではなかろうか。

合奏団は何処でも奏者の技術のレベルに差があり、選曲に苦しむのであるが、二・三の優れた奏者を持つ合奏団には向くのではなかろうか。

昔から私たちのマンドリン合奏団は、やたら弾き捲くるのを快とする傾向があり、本人は満足かも知れないが、

音楽を聴こうとする側は技術を見に集まるわけではないので、段々と離れられて内輪の楽しみに終わってしまうのである。

本曲などは内容も判り易く、軽く扱わないで全力投球で当たって頂ければ、充分面白くなる筈である。

筆者はこの四月、満92才を迎え余命幾許もないが、何の報われる期待もないこれらの楽譜を書く作業を毎日嬉々としてやっている。

人間90才を越えると知人も少なくなり、今浦島で慾も得もなく初心に還るものである。

マンドリン歴70余年、少しマンドリンに拘（かかわ）り過ぎたようである。

そしてオリジナル必ずしも最高でなく、今まで見過ごしてきた諸々のもの、

何を聴いても見ても食べても幸せを感じるようになったのは不思議である。（1994.3.11中野）

1994年 4月 発行

マンドリン合奏曲集10集（JMU版 パート譜付）より